

①一里塚跡

風祭駅から旧東海道に出て左(西方)に行くと、山側に風祭公民館がある。このあたりから先の道の左右に、かつて東海道の一里塚が築かれていた。『風土記稿』によると、左右の塚の高さ各1丈(3m)で、塚の上にエノキが植えられていた。小田原西の一里塚で江戸から21里にあたる。

②道祖神

一里塚説明版の脇に道祖神が2体置かれている。1体は単体僧形の道祖神で伊豆地方に多くみられる型の北限とされる貴重な物。もう1体は石祠型の道祖神。これらは市の指定文化財になっている。



③宝泉寺

永禄山宝泉寺は臨済宗大徳寺派の寺。永禄元年(1558)湯本早雲寺二世大室宗碩の開山。開基は早雲の孫に当る小机(横浜市)城主北条三郎時長。本尊は釈迦。永禄4年(1561)の北条氏虎朱印状と寺領絵図・ギンモクセイが市の指定文化財だったが、ギンモクセイは平成17年強風により倒木した。

嘉永3年(1850)寺領の材木で建築した本堂・庫裏は、臨済宗の古い内陣建築様式を残す。狩野派の四季図襖絵の座敷から望む庭園は北条幻庵作ともいわれ、古い採石地屏風岩などの広大な借景を覗わせる。

古絵図で東海道に面していた観音堂は、山門の南に移り、如意輪観音を本尊とするが、石像地藏尊も祀り定期的に念仏講が開催されている。なお水之尾毘沙門天堂を管理している。



④萬松院

『風土記稿』では、曹洞宗祝融山萬松院だったが、山号は清竜山と改称。三河吉田龍拈寺末寺。開山は本寺七世白州巖龍。開基は城主大久保七郎右衛門忠世。文禄元年(1592)造立。寺伝によると徳川家康の長男松平信康を二股城に預かり自害させた大久保忠世が、信康の供養のために建立したとされる。

本尊は聖観音菩薩。享和元年(1801)の十三仏、十六羅漢がある。また注目されるのは釈迦来迎図軸で、信康公信仰の品が伝来していることである。境内に薬師堂、厄除け地藏堂もある。墓地には信康を供養する大きな五輪塔と北条氏直の武者奉行福島伊賀守成賢の墓がある。

⑤水之尾毘沙門天

『風土記稿』では「此所に毘沙門の形に似たる自然石あり、村民覆屋を作り置き、村民持」と記すが、風祭の宝泉寺持ちで、代々導師を務める。昔は正月初寅の日の寅の刻(午前4時頃)に祈祷し、十徳(富貴自在・家門繁栄・五穀豊穰・怨的退散など)を授けられたという。

小田原城主も、水之尾参りをしたという。近在から、また二宮・秦野方面からも寅の刻をめどに参集しわが身わが家の諸願を祈った。この御神体は大きな自然石の壁面で、三角状に突起した石の上部を神の宿る所としてあがめた。普段は御神体の前に前仏が安置されており、御開帳の時に前仏を移して御神体を見せた。12年ごとの寅年の正月に、御開帳される。堂内には富士の巻き狩りなどの絵馬9点が掛かる。

毘沙門堂建立は天正年間(1573～1592)小田原北条氏の時代に遡るという。古老の言い伝えでは「石を採っていた時、岩の間から血が流れてきた。毘沙門天が城主の夢枕に立って、わが身を傷つけるな。しからばお前を守護してやろう」と述べられたとのこと。

境内には手水鉢や石灯籠の他に、「福子地藏今王」という石碑があったが今はない。

⑨妙覚寺

文永11年(1274)の造立。日蓮宗中山法華経寺末寺。昔ここに真言宗の寺があり、住僧順学(林覚)は、文永5年(1268)宿泊した日弁と法論して弟子となり改宗、名も日順(日意)と改めた。文永11年日忍は、山寺号を定め、師の日弁を開山と仰ぎ、自ら二世となり、日順を三世としたが、後自ら開山となる。開基は風祭入道大野三河守光秀。

本尊の三宝尊(一塔両尊ともいわれ題目塔の左右に釈迦と多宝如来坐像を安置する)は江戸時代の作。祖師日蓮聖人坐像は江戸時代初期の作。その施主の磯崎氏の墓(寛永16年・正保4年建立)は変形宝篋印塔で歴代住職墓地前の左右に現存する。大黒天像は江戸時代作。大狸繫図も残る。門前にある総高323cmの題目塔は元禄5年(1692)、京都の谷口法悦長熊による造立。

⑩風祭八幡神社

『風土記稿』によると、御神体は弘法大師作と伝わる長さ約45cmの立像だが、かつて別当を勤めた妙覚寺蔵の木版の掛け軸「正八幡大菩薩像」の賛などによると文永11年(1274)に勧請し、神像は中老日弁が開眼したことになっている。例祭は9月19日だったが、現在は4月に行われる。「風祭の芋田楽、入生田のおみおつけ」といわれて、参加者に芋田楽が振舞われる。

狛犬の台座の富士山の溶岩や明治16年の講碑などがあり、風祭村民の富士山信仰を物語っている。

入生田のカゴノキ

樹高17m、目通り幹回3.7m、樹齢約300年(推定)のカゴノキは市指定の天然記念物、「かながわの名木100選」になっている。カゴノキは樹皮が小さなまらい薄片状にとれ、そのあとが鹿の子模様になる。

三浦三太夫霊神

現在「三浦三太夫霊神」とされている祭所は、以前「前田の稲荷」と呼ばれ、登山鉄道の電車の安全を祈念したという話も残る。40年ほど前から「三浦三太夫霊神」として祭られるようになった。線路を正面にして石鳥居と石洞、五輪塔がある。

入生田山神社社

「さんじんじんしゃ」と読む。社は旧街道沿いの山側石段上にある。祭神は大山祇命。

入生田の各地の社を、明治初年に移した。早川の対岸牛裂き河原の石取りにあったという後河原村の山神社も本殿右手に移されている。本殿は嘉永年間(1848～1854)、拝殿は明治21年(1888)の建造。左手の神楽殿では例祭に神楽等が奉納された。拝殿には嘉永4年(1851)の俳額と、明治26年(1893)と27年の絵馬がかかる。

後河原村は『風土記稿』によると石垣山の北にあったが天和年間(1681)の洪水で川瀬が南に変わり入生田に移住した戸数3の小さな村である。明治11年(1878)の後河原村絵図によると現在の地球博物館・温泉研究所などの位置にあたるが、当時は早川沿いに細長く開けた水田だった。

紹太寺

本堂正面に総門の扇額「長興山」が掛かる。黄葉宗を伝えた渡来僧隠元(万福寺開山)の書である。本堂裏の墓地には、長興山開発供養塔があり、15名の死者や役人・石工朝倉清兵衛ら多数の法名、労役僧名が刻まれている(市指定文化財)。また箱根戊辰戦争の遊撃隊員朝比奈某の墓もある。



石段を360段上ると、稲葉一族の墓所(市指定文化財)である。左から、開基の稲葉正則(開基・城主)稲葉正勝夫人、稲葉正勝(正則の父)、春日局(正勝の母)、稲葉正則夫人、稲葉正通夫人、稲葉正則の長兄、塚田正家(正勝の家臣)の墓や供養塔が並ぶ。

正則は父母を弔うために、城下の山角町に紹太寺(臨済宗)を建立し、寛文9年(1669)、現在地に移転して、黄葉宗に改めた。開山は鉄牛道機和尚。黄葉の三傑といわれた名僧である。当時の正則は幕府の老中筆頭で、幕政の四代将軍家綱を支える中心人物だった。

長興山の枝垂桜(樹名・シダレザクラ)は紹太寺建立の頃植えられた樹齢300余年の老木なので、平成元年から樹木医による樹勢回復治療を継続している。背後にある寿塔付近の自然林の樹叢と共に市の天然記念物に指定され保護されている。この境内の特色の一つは牛臥せ石から谷川の石まで名僧の筆による名前が彫られている事である。

徳本名号塔

徳本名号塔は長寿園の入口左手にある。総高187cmの四角柱の三面に南無阿弥陀仏と特色ある文字が彫られている。「徳本行者関東撰化講中名号記」にある入生田講中の世話人伝左衛門による道歌が彫刻されている。文政7年(1824)の建立。

駒留橋跡

入生田駅西約550m駒留橋跡国道1号線に旧街道が交わる箱根と小田原の境界である吾性沢に架かる長さ3尺、幅2間の石橋だった。源頼朝の馬のひづめの痕があるので、旅人が馬の健脚にあやかりたいと足の痛み防止を祈ったとのこと。しかし明治の元勲山脈有朋が古稀庵に住むことになって、地元から寄付し、今では箱根町が立てた案内標だけが残る。



御坪水神社

駒留橋から右手周りに坂を沢沿いに上り詰めると、標高100m辺の左手に立つ2本の石碑がそれである。明治27年(1894)10軒で造った簡易水道の水源地の水神碑である。関東大地震まではこの辺が湯本堰(荻窪用水)の水路であったので、今でも等高線沿いに歩くと水路跡を発見できる。